

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 平3-292406

⑬ Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)12月24日

F 16 B 12/44
B 66 F 3/08C 7712-3J
Z 2105-3F

審査請求 有 請求項の数 2 (全3頁)

⑮ 発明の名称 基礎台調整用支持具

⑯ 特 願 平2-91855

⑰ 出 願 平2(1990)4月6日

⑱ 発 明 者 佐 久 間 恵 一 東京都港区海岸1丁目4番8号

⑲ 出 願 人 株 式 会 社 秀 光 東京都港区海岸1丁目4番8号

⑳ 代 理 人 弁 理 士 小 川 修

明 細 書

1. 発明の名称 基礎台調整用支持具

2. 特許請求の範囲

(1) 方形の板材にネジ穴(2)を三箇所、即ち中央及び板材の一辺と平行である二等分線上でかつ中央と等間隔にある2点に穿つとともに、4個の突起棒(3)を板材の直近の各辺からはば等間隔にある位置に固設した板(1)と前記ネジ穴(2)と螺合するボルト(4)を縦着した1個又は2個の台(5)とから成ることを特徴とする基礎台調整用支持具

(2) 板(1)の1隅を直角二等辺三角形状に切り欠いた請求項1記載の基礎台調整用支持具

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

この発明は、アクセスフロア、展示用台その他の基礎台等を水平に調整するための支持用具に関するものである。

(解決しようとする課題)

博覧会や商品展示会その他において使用する

展示物積載用の基礎台を水平に保つための調整用具は、基礎台そのものに付帯して設けられるものの外には、従来ほとんど実用に耐える程度がなく、簡単に基礎台を水平に調整することができる用具の開発が望まれていた。この発明の目的は、例えばアクセスフロアや規模の大小を問わず物を積載する基礎台を簡便かつ容易に水平に調整することができる支持具を提供するのである。

(課題を解決するための手段)

前記目的を達するため、本発明に係る基礎台調整用支持具は、方形の板材にネジ穴3箇所を穿ち、使用形態によって後記支持台を1個用い又は2個用いることができるようにし、また、板材に4個の突起棒を固設して後に詳述する展示用等の基礎台支持フレーム固定及び固定位置矯正可能にし、更に、板材の1隅を直角二等辺三角形状に切り欠いて前記支持フレーム隅部或いは展示場所と整合させてなる板と前記ネジ穴に螺合するボルトを縦着した支持台から構成さ

れている。

(実施例)

本発明の実施例を図面によって説明する。第1図は、実施例の概要を示す斜視図、第2図はボルトと台が接着された状態を示す縦断面図、第3図乃至第5図は実施例の使用例を示す説明図である。金属その他荷重に耐える材質の板材にネジ穴(2)を3箇所、即ち中央に1箇所と板材の一边と平行な二等分線上でかつ中央と等間隔に2箇所穿ち、後記ボルト(4)と螺合可能にし、後記台(5)を1個用いる場合は中央のネジ穴に、2個用いる場合は他の2箇所のネジ穴にボルト(4)を螺合する。また、板材の直近の辺とほぼ等間隔にある位置に、4箇所の突起棒(3)を接着その他の手段で固設するが、その位置は用いる後記支持フレーム(6)の形状及び大きさに合せて決定される。更に、板材の1隅を直角二等辺三角形形状に切り欠くよう構成すれば、例えば、本基礎台調整用支持具を部屋の隅で用いるときで該隅が直角でない場合、物

が置かれている場合等のとき使用可能にするだけでなく、支持フレーム(6)の隅部の形状にも符合し、便利である。板(1)と別体に前記ネジ穴(2)に螺合するボルト(4)を接着した例えば合成樹脂製台(5)を形成し、これを本基礎台調整用支持具使用の趣意により1個又は2個螺合して用いる。

(作用及び効果)

第3図乃至第5図により、本基礎台調整用支持具の作用及び効果を説明する。第3図は、本基礎台調整用支持具を基礎台の隅部に用いる場合の説明図で、基礎台の底部に基礎台と一体に又は別体に枠材である支持フレーム(6)を形成し、板(1)に積載すればよい。この場合、台(5)は1個用い、ボルト(4)を中央のネジ穴(2)に螺合し、同図に示すとおり突起棒(3)を支持フレーム(6)の内側に接着・位置させるようにすれば、本基礎台調整用支持具と支持フレーム(6)の位置関係がおのずから定まる。そこで、ボルト(4)を回転させ、基

礎台が水平に保たれるよう調整を行う。従って支持フレーム(6)の枠の幅と突起棒(3)の固設位置は、相関連して定められることになる。第4図は、支持フレーム(6)が相接するように本基礎台調整用支持具に積載される場合の説明図で、この場合は台(5)は2個用い、ボルト(4)は、中央にあるものでないネジ穴(2)に螺合する。第5図は、4箇所の支持フレームを積載する場合の説明図で、この場合は台(5)を1個用い、中央のネジ穴(2)にボルト(4)を螺合する。この場合で注意することは、支持フレーム(6)の隅の形状を直角二等辺三角形形状に切り欠いた形にし、ボルト(4)の螺合の邪魔にならないようにしておく必要があることであるが、支持フレームの形をこのようにしておけば、この場合に限らず、前記第3図で説明した場合などにおいても、直角でない部屋の隅に用いたり、置き物がある場合などにも便利である。以上の説明から明らかなように、支持フレーム(6)の数に応じて、即ち基礎台が単数に

限らず、広く応用することができ、ボルト(4)の調節のみで、容易に水平を保つことができる。

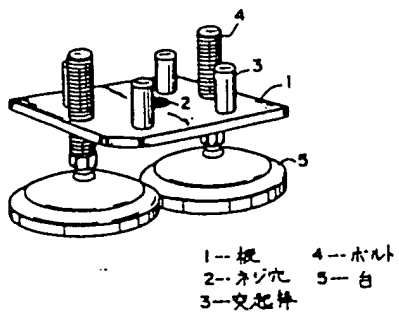
4. 図面の簡単な説明

第1図は実施例の概要を示す斜視図、第2図は、台の縦断面図、第3図乃至第5図は実施例の使用例を示す説明図である。

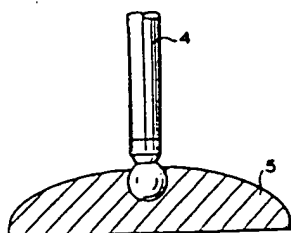
- 1・・・板
- 2・・・ネジ穴
- 3・・・突起棒
- 4・・・ボルト
- 5・・・台

特許出願代理人 弁理士小川修

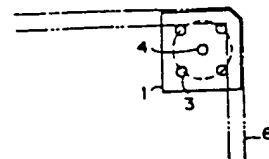
第1図



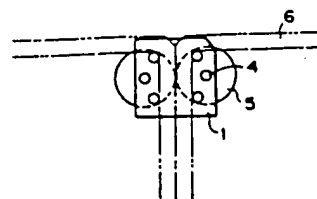
第2図



第3図



第4図



第5図

